



地域懇談会のようす

の各委員会で一回一〇分の特設ホームルームを各六回実施した。テーマは次のとおりであった。

①人間委員会

- 人間が豊かとは
- 宇宙に求める人間の課題
- 修学旅行への人間的な関わり
- 人間としての在り方生き方について考える

②世界委員会

- 自分たちができる身近なこと
- 世界を意識できる体験
- 「競争から連帯へ」世界観を育成する

③地球委員会

- Ecocide
- (人間活動と地球環境・地球環境の現状)

● Economy or Ecology  
(経済成長か環境保護か…自然観、価値観の転換)

● Think globally, Act locally  
(日常生活の場での実践)

(4) 講演会

それぞれの委員会では生徒が「在り方生き方」を考察するのに最も効果的と考えられる講演会を実施した。

①人間委員会

詩人・哲学者・本校校歌作詞者

宗 左近 氏

題『宇宙に求める人間の課題』

平成五年八月三十日

(講演会後、生徒たちとの懇談会を開催した)

②世界委員会



宗 左近氏の講演会

サッカー解説者(元オリンピック選手) 松本育夫 氏  
題『人生へのチャレンジ』  
平成五年八月二十七日

③地球委員会

作家・ムツゴロウ王国

畑 正憲 氏

題『ムツゴロウ大いに語る』

平成五年十一月五日

④運営委員会

日本骨髄バンク理事

大谷貴子 氏

題『ひとすじの光を求めて』

平成六年三月五日

(5) 特別活動

①生徒会活動

生徒会では、本部として各種の学  
校行事を開催し、専門委員会ではそ  
れぞれに「在り方生き方」に関わる  
実践を行った。

● 新聞委員会

第十号は「特集『高まろう宇宙の  
奥の宇宙まで』広げよう」との大見  
出しで研究指定校として様々な行事  
や催しを実践することを知らせた。

地域懇談会が開かれたのは、七月

十三日である。この会には各クラス  
代表など生徒が約三十五名参加し

た。生徒全員にその内容を知らせる  
ために、話された内容を書き起し、

号外として発行した。八月三十日は  
宗左近先生の講演会が開かれ、その

後、講師と生徒代表による座談会が  
持たれた。これも号外として書き起  
こして全校生に内容も知らせた。第  
三回目は文化祭の前に開催したが、  
もう一度文化祭の意味を問い直し  
て、準備に専念するようにとのねら  
いであった。定期の第十一号は、指  
定研究の成果発表会の日に発行し  
た。「在り方生き方」について改めて  
考えさせようとした内容のものであ  
る。

● 交通安全委員会

『人間としての在り方生き方』その  
前提となるのが、今生きていること  
である。その生きていようとするこ  
とを否定するもの一つに、交通事  
故があげられる。生命の尊さを思う  
とき、交通安全の意識の高まりが必  
要となる。交通安全委員会としての  
任務の力点を各生徒への意識の改革  
などを徹底することに置いた。学校  
祭では、一つのコーナーを設け生徒  
の自転車安全に関しての意識の高揚  
を図った。内容には、本校の事故の  
形態をまとめたもの、アンケート結  
果の展示、通学路の危険箇所の表示  
などが展示された。

②清陵祭(学校祭)

生徒会が主催する三年に一度の学  
校祭は、十月三十日(土)から三十一日  
(日)の一般公開を含めて3日間開かれ  
た。清陵祭のメインテーマが『C A